広島大学原爆放射線医科学研究所 腫瘍外科

広島大学原爆放射線医科学研究所腫瘍外科は、1962年に初代　江崎治夫教授が開講し、1973年より服部孝雄教授が引き継ぎ、1989年より現在の峠哲哉教授が就任し今日に至っています。

峠教授は、1969年に広島大学を卒業後、同大学原爆放射線医科学研究所腫瘍外科に入局。1974年から東京大学医科学研究所癌病態研究部に国内留学、1978年からフランス・パリ大学免疫生物学研究所に腫瘍免疫の研究のため留学。1980年より講師となり、1989年に教授に就任し、消化器外科、腫瘍免疫、癌化学療法を中心に研究・診療を行っています。また、1996年には広島大学原爆放射線医科学研究所所長を2年間兼任しました。

教室員は教授以下、助教授2名、講師3名、助手4名、医員・研修医・大学院生合わせて28名、関連病院への出向者78名であり総勢約216名が在籍しております。主な関連病院として、広島市立安佐市民病院、広島市民病院、広島県立安芸津病院、広島県立瀬戸田病院、済生会広島病院、済生会呉病院、広島三菱病院、国立病院四国がんセンター、国立病院九州がんセンター、国立病院九州医療センターなどであり、その他20余の民間病院に教室員を派遣しています。また、海外留学施設として、フランスCNRS-IRSC、スウェーデンKarolinska Institute、米国UCSD Cancer Centerなどがあります。

外来・病棟は広島大学医学部附属病院の一員として活動し、学生講義、病棟実習を担当しております。教室の週間スケジュールは、月曜日朝7時30分より教授回診、火曜日、木曜日は手術日、水曜日朝7時30分より助教授回診、17時30分から、術前症例検討会、死亡症例検討会、医局会が行われています。20時より各研究グループ、免疫・遺伝子・化学療法に分かれて英語論文抄読会が行われています。また、金曜日8時から講師回診が行われております。

診療面においては、臓器別に、食道、胃、肝胆膵、大腸、乳腺、呼吸器、甲状腺の各グループにわかれ、専門的な治療を行っております。当教室における入院患者は年間平均400例、年間手術件数は約240例であります。特殊外来として1992年より免疫療法外来を設置し、活性化自己リンパ球移入療法を実施しているのも特色のひとつです。また、1995年よりがんの相談コーナーCancer Faxを開設し、全国からの癌治療の問い合わせにお答えしています。

当教室は1997年には第10回日本バイオセラピィ学会、1999年には第20回癌免疫外科研究会、2001年には第39回日本癌治療学会、2002年には研究会として最後の集会となった第56回日本食道疾患研究会を担当させていただきました。本年度担当する学会・研究会は、第12回日本癌病態治療研究会（7月初め）、広島腫瘍外科研究会（7月）、広島癌治療研究会（10月）、広島手術手技研究会（12月）、広島外科フォーラム（12月）などであります。

臨床・教育・研究・学会活動におわれる毎日ではありますが、最先端の研究と臨床を結び付け、最高の医療を提供することを最優先とし、教室員一同日夜努力しております。